認知モードから見た現代フランス語の再帰構文受動用法
ー 英語の中間構文との対比を通して ー

春木 仁孝
（大阪大学）

フランス語の再帰構文受動用法と英語の中間構文には以下のような大きな相違点があることが知られている。

1. フランス語では副詞のない発話も多いが、英語の中間構文では副詞句の共起がほぼ義務的である。
2. 英語では難易度、到達度、様態、評価の副詞が共起するが、フランス語ではさらに手段、頻度、潜在的動作主の状態・感情など、英語よりも共起する副詞句の範囲が広い。
3. 英語の中間構文は基本的に属性解釈文だが、フランス語では出来事解釈文も多い。
4. フランス語ではモダリティーに関しては「可能」に加えて「規範」解釈もある。

以上のような相違点に対する統一的な説明の可能性を、事態を把握して言語化する際の、両言語における認知モードの違いという観点からさぐりたい。